

2018年9月12日

株式会社朝日新聞社  
広報部長 後田 竜衛様

朝日新聞英語版の「慰安婦」印象操作中止を求める有志の会  
ケント ギルバート  
山岡 鉄秀

### 検索回避メタタグ問題を受けての各種申し入れ

冠省

日本語の「慰安婦と挺身隊の混同記事」中に検索回避のメタタグが存在していたことについて、産経新聞9月9日付の記事が伝える御社の釈明を読んで非常に驚きました。

「8月23日に英語版のタグについて産経新聞の取材を受けた際、日本語版の記事についても確認作業をした。その際に配信システムの操作を誤り、記事の設定が変わっていたことが分かった」（記事より引用）

英語記事中のメタタグの存在は配信時の削除漏れで、今回は指摘を受けたメタタグの削除作業の流れで誤って日本語記事にメタタグを挿入してしまったという意味でしょうか。全く現実味がなく、もしその通りだとしたら非常にずさんな管理運営をされていることになります。

該当記事のソースページに表示される改定日時を確認すると、指摘を受けたふたつの英語訳記事の検索回避メタタグを削除するより前に、日本語版記事にメタタグを挿入していたように見受けられます。御社の説明にもありましたとおり、メタタグの挿入は意図的に行われるものであり、削除する前に別の記事に新たに挿入する作業は明らかに人為的なものです。

また、2014年8月5日に公開された慰安婦関連記事の英訳記事が、日本語環境（朝日新聞デジタル）で日本語として定義されて作成されていることについて、英語環境である The Asahi Shimbun のサイトに慰安婦関連記事のポータルページのようなものをつくり、そこから日本語サイトにリンクを張ったとのご説明を頂きました。これについて実際のサイトおよびリンクを確認して大変驚きました。以下、解説させていただくとともに、当方からの要望を申し述べます。

まず、英語サイトの The Asahi Shimbun トップページからそのポータルページへのリンクですが、次のページの画面にあるように、ずっと下の方の右端に存在し、かつ、In-house news and messages と名付けられています。これを直訳すれば「社内ニュースとメッセージ」であり、社員向けの連絡欄と思われてしまうでしょう。「健康診断のお知らせ」が書いてあっても驚きません。誰も慰安婦報道関連だとは想像もできないでしょう。

www.asahi.com/ajw/

missiles at a  
A regional bank, which was touted  
as a role model of sorts, has  
turned  
meeting in Bangkok fell short of  
its aim of

NYONKANG--In not showc...  
asahi.com

Asger R. Christensen  
@asnermle

Embed View on Twitter

Transform through SDGs

JAPANESE HOME COOKING

ASAHI HAIKUIST NETWORK/ David McMurray

by David McMurray

Learning English

Asahi Weekly

**In-house News and Messages →**

Link

The New York Times

万が一御社の社内ニュースに興味を持った読者がここをクリックすると、慰安婦関連記事を集めたポータルがありますが、下記にありますとおり、さらに一番下にあるリンクをクリックして朝日新聞デジタルの日本語サイトに飛ばないと今回隠されていた誤報の核心記事に辿り着けません。これではアリバイのためにポータルを作成したとのそしりを免れないでしょう。

保護されていない通信 | www.asahi.com/ajw/inhouse\_news/

- > **Asahi president responds to questions about panel's report on past 'comfort women' coverage** (12/26)
- > **Third-party panel gives 3 assessments on international influence of Asahi's coverage on comfort women issue** (12/23)
- > **Asahi president: Company will sincerely implement wide-ranging recommendations** (12/27)
- > **Third-party panel criticizes delay in retracting 'comfort women' articles over Yoshida testimony** (12/23)
- > **Asahi third-party panel says neglecting erroneous articles on 'comfort women' coverage 'betrayed readers'** (12/22)

**Thinking about the comfort women issue →**

\*ここから日本語サイトへ飛ぶことになります。

そしてリンク先の日本語サイトで最初に出てくるのは杉浦信之氏による社説と御社主張を書いた記事 - 「慰安婦問題の本質は変わらない」です。

れていない通信 | [www.asahi.com/topics/ianfumondaiwokangaeru/en/](http://www.asahi.com/topics/ianfumondaiwokangaeru/en/)

The screenshot shows the top section of the Asahi News Digital website. At the top left is the logo for '朝日新聞 DIGITAL'. To the right are icons for RSS, a speech bubble, a lightbulb, and the character 'あ'. Further right is a search bar with the text '検索' and a '目次' button. Below this is a horizontal navigation menu with categories: 'トップニュース', 'スポーツ', 'カルチャー', '特集・連載', and 'オピニオン'. Underneath are sub-categories: '新着', '天声人語', '社会', '政治', '経済・マネー', '国際', 'テック&サイエンス', '環境・エネルギー', and '地域'. Below the menu are social media buttons for 'シェア' (1201), 'ツイート' (list), and 'ブックマーク' (12). At the bottom of the header, it says 'ニュース > トピックス > Thinking about the comfort women issueに関するトピックス'.

## Thinking about the comfort women issue

[Japanese]

### Look squarely at essence of 'comfort women' issue →

By Nobuyuki Sugiura Executive Editor (8/22)

#### Core of 'comfort women' issue remains unchanged → (8/29)

ここまで来ても、誤報の核心を伝える、ふたつの記事に辿り着くにはスクロールダウンして下部にあるリンクを探さなくてはなりません。さらに検索回避のメタタグが挿入されていたのですから、奥の奥に隠されていたことになります。

ご存じのように、朝日新聞第三者委員会は次のことを明確に述べています。

- 1997年の慰安婦報道検証時に撤回と謝罪をしなかったのは致命的なミスであった。
- 2014年の撤回は遅きに失したうえ、なぜここまで遅れたかの検証がない不十分なもの。
- 「強制性」について「狭義の強制性」に限定する考え方を他人事のように批判し、河野談話に依拠して「広義の強制性」の存在を強調する論調は、のちの批判にもあるとおり、「議論のすりかえ」である。

また、2014年12月26日、第三者委員会の報告を受けた渡辺雅隆社長は次のように語っています。

「慰安婦報道について朝日新聞は、'97年と'14の二度、検証記事を掲載しましたが、いずれも誤りを率直に認めて謝罪し、わかりやすく説明する姿勢に欠けていました。読者の皆さま

まに向き合う姿勢をおろそかにし、批判に対して自社の立場を弁護する内向きの姿勢に陥ってしまったことを深く反省しています。社会に役立つメディアとして再び信頼していただけるよう改革に取り組みます」

「慰安婦報道につきましては、(先ほど西村取締役からも申し上げましたように) 私たちは慰安婦報道の実相を伝えるべく、これからもチームを作ってしっかりと報道していくつもりでございますので、それを英文もしくはその他言語も含めて発信していくことで、海外への理解を深めていければなあと思っております」

(THEMIS 2018年9月号)

上記に鑑みて、御社の一連の行為は、検索逃れの設定が故意であるか過失であるかに拘わらず、第三者委員会の提言や渡辺社長の発言に著しく逆行するものだと言わざるを得ないでしょう。そこで私たちは、下記事項の迅速な実行を御社に対し要求いたします。

1.

下記のふたつの記事に関しては公開期限設定を解除し、無期限の公開とする。

「済州島で連行」証言 裏付け得られず虚偽と判断

「挺身隊」との混同 当時は研究が乏しく同一視

2.

In-house News and Messages を Retracted Articles (撤回された記事)に変更する。

3.

下記ふたつの記事に関しては設定を(言語=英語、コンテンツ=英語)に変更し、英語環境(AJW)に移して、前述の”Retracted Articles”の下に直接リストする。

“Testimony about 'forcible taking away of women on Jeju Island': Judged to be fabrication because supporting evidence not found” (済州島連行虚偽と判断)

“Confusion with 'volunteer corps': Insufficient research at that time led to comfort women and volunteer corps seen as the same” (慰安婦と挺身隊混同)

4.

狭義の強制を示唆する”forced to provide sex”の表現の使用を中止する。今後慰安婦の説明的表現を追加するなら、comfort women who worked in brothels regulated by the military authorities などの表現を使用すること。

5.

2014年の第三者委員会の提言や渡辺社長の発言にも拘らず、誤報の核心記事を撤回以来一貫して検索不能にしていた責任を認め、公式に記者会見を開いて謝罪する。

新聞社であれば、誤報があれば即座に撤回して謝罪し、幅広く告知することが信頼を保つための重要な危機管理であることは申し上げるまでもありません。第三者委員会の報告書によれば、すでに遅きに失した2014年の再検証時でさえ、当初木村伊量社長らの意向で謝罪を拒否したとあります。今回のメタタグ問題にしても、あたかも現場担当者に責任を押し付けるような言説はいかかなものでしょうか。コーポレートガバナンスの観点から、組織として、企業としての責任を認識し、社会に表明することが不可欠だと考えます。

以上、9月17日までのご回答をお願い致します。

早々

**朝日新聞英語版の「慰安婦」印象操作中止を求める有志の会**

〈連絡先〉

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-2 桜ビル8階 内田智法律事務所内

TEL： 03-5357-1401 FAX： 03-5357-1402